



# 多世代の「架け橋」が創る 持続可能な社会教育のかたち

北竜未来ユースが繋ぐ子どもと高齢者のふれあい事業

北竜町教育委員会 岸 直樹

# 本日の スケジュール

1. 自己紹介
2. まちの紹介
3. 空知管内の研究テーマ
4. 事例紹介
5. 質疑応答

# 1. 自己紹介

# 自己紹介

写真

岸 直樹

- ・岩見沢市出身
- ・33歳
- ・北竜町で働いて7年目  
(ずっと教育委員会)
- ・趣味はけん玉と野球

## 2. まちの紹介

# 北竜町ってどんなまち？



## 1 まちの概要

☑人口 1,553人  
(令和8年2月1日現在)

☑世帯数 761戸

### ☑産業

- 稲作を基幹作物とした農業のまち
- 米、そば、麦、大豆、メロン、すいか等を生産

### ☑観光

- ・約200万本のひまわりが咲き誇る「ひまわりの里」
- ・道の駅「サンフラワー北竜」、ホテル、温泉施設
- ・自然と農村の魅力を楽しめる



# 北竜町ってどんなまち？

## 2 まちの魅力

### ☑ まちの人たちとの関わり

- ・“お互いさま”の地域コミュニティが機能
- ・まち全体が家族のような温かさ

### ☑ ひまわりの里・ひまわりまつり

- ・面積は23.1ヘクタール(東京ドーム約5個分)
- ・本数は約200万本
- ・ひまわりまつりは7月中旬～8月下旬
- ・毎年20万人以上の観光客が訪れる

### ☑ 農業

- ・全町を挙げて一貫して取り組む安心安全な農業
- ・環境に配慮した米作りの歴史や誇り
- ・生産情報公表農産物JASを取得

### ☑ 特産品

- ・ひまわりライス、ひまわりメロン、ひまわりスイカ
- ・黒千石大豆
- ・ひまわり油



# 3. 空知管内の研究テーマ



多世代が交流できる学びの展開

～青年層の人材活用～

## 4. 事例紹介



# 子どもと高齢者のふれあい事業

昭和58年に道教委から北竜町教育委員会が受託し開始(43年目)

- 趣旨**
- ・高齢者のもつ知識や技術を子どもたちに伝承する
  - ・子どもたちが高齢者に対して尊敬と思いやりのある心を育てる
  - ・高齢者の生きがい創出

- 内容**
- ・年8回実施(申込制)
  - ・野菜の種まき、収穫する、餅つき
  - ・昔遊び、工作、雪遊び など

対象  
小学生

小学校  
教頭

ふれあい  
推進委員  
13名



## ★見えた課題

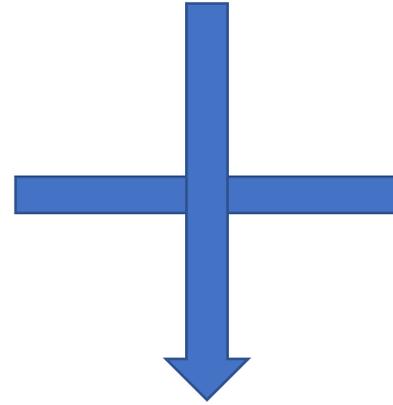
高齢者と子どもの会話が少ない？  
身近に祖父母がいるのが当たり前だったが  
今は当たり前じゃない・・・

世代間の  
距離感

会話が  
弾みにくい



世代間の  
距離感



会話が  
弾みにくい

どうやったら  
解決できる？



# 北竜町が目指すのは・・・

## すべての世代が成長し合う活発な町

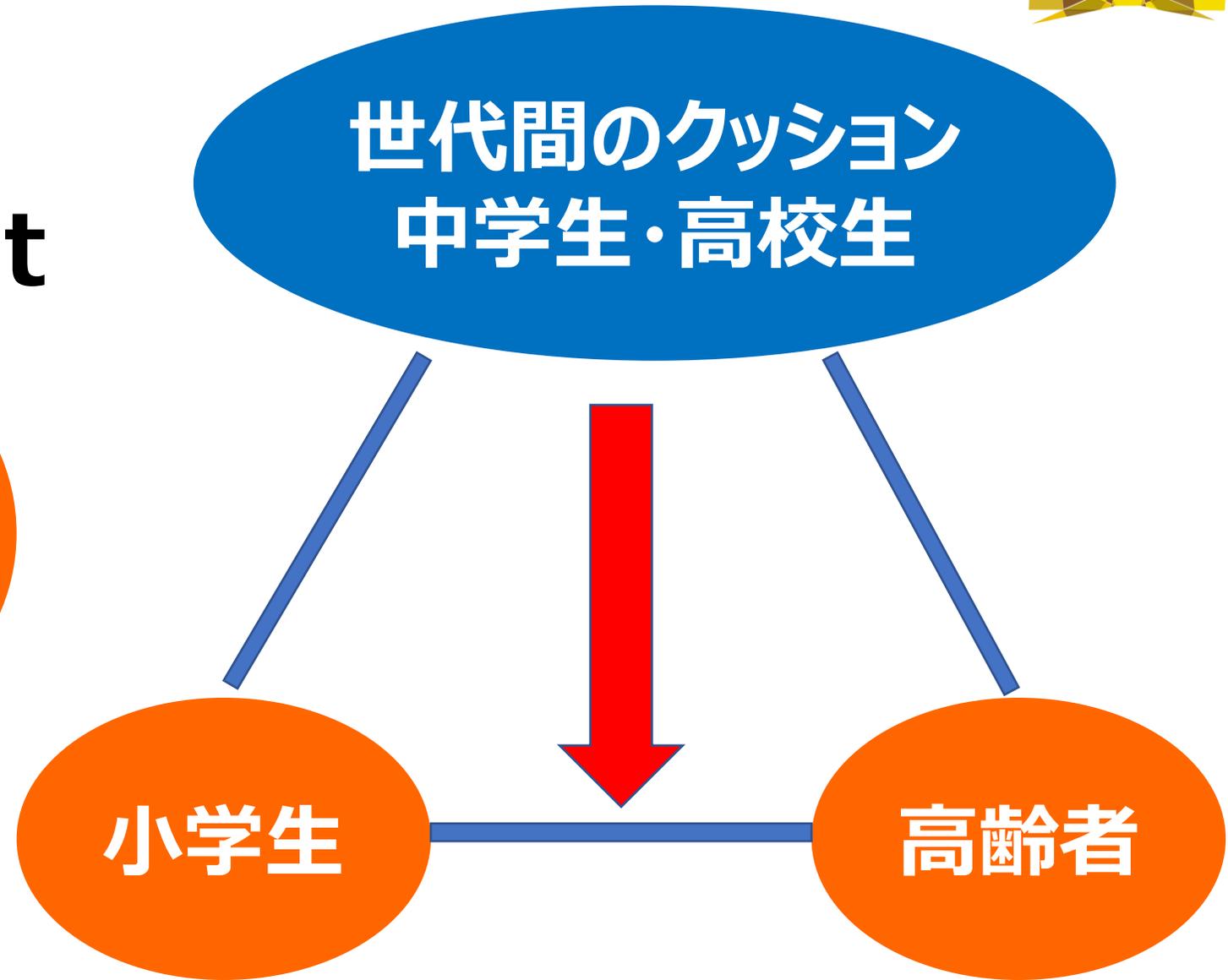
- ・小学生、高齢者対象の社会教育事業はある  
→中学生から参加できる何かがあれば・・・

なんと？

また ふれあい事業いきたいな～



# モヤモヤPoint





# 北竜未来ユース

令和4年度から中学生以上を対象に募集開始（登録制）

**趣旨** 既存事業へ中学生以上の学生の参加を図り、地域や異世代との繋がりから参加者の自己肯定感を高めるとともに、地域に関心を持ち、町を好きになるきっかけ作りの場を提供する。

**内容**

- ・教委の既存事業や町の事業へ**ボランティア**として参加
- ・ボランティアとしての心構えなどの研修会 など



学習塾？

今の中学生（以上）って

部活動？

忙しくない？



忙しい中、参加してもらうには

①登録制だけど自由参加

→登録・参加のハードルを下げる

②校長先生・部活動顧問に直談判

→「生徒自身の学び」という共通理解



# 登録者数の推移

全校生徒30名弱

|       |          |         |   |
|-------|----------|---------|---|
| ・初年度  | 中学生 3 名  | 高校生 1 名 |   |
| ・R5年度 | 中学生 3 名  | 高校生 1 名 | → |
| ・R6年度 | 中学生 6 名  | 高校生 1 名 | ↗ |
| ・R7年度 | 中学生 11 名 | 高校生 1 名 | ↗ |

未来ユースに憧れる



# R7年度ふれあい事業 未来ユース参加者数

(登録者12名)

| 事業名      | 参加者数 |
|----------|------|
| 野菜の種まき   | 6名   |
| フロアカーリング | 2名   |
| さくらんぼ狩り  | 10名  |
| 実験教室     | 4名   |
| 農園収穫祭    | 0名   |
| 餅つき      | 7名   |
| 昔遊び・豆まき  | 5名   |

平均すると  
約5名が  
毎回参加

学校祭と重なったため



# ★未来ユースの流れ

**Step 1 研修会に参加**

ボランティアの  
基礎を学ぶ

**Step 2 未来ユースとして活動**

**Step 3 実践・反省**

事業終わりに  
簡単な反省会





聞かせて！

# 登録者の声

**ふれあい事業に参加して、小学生の時と比べてどういう変化があった？**

- ★ 子どもとは勿論、高齢者の方とも話す機会が増えて、新しいことを知ることができるようになった（餅の作り方のコツなど）
- ★ 小学生の頃より、高齢者の方と協力して何かをすることが増えた
- ★ 自分が小学生の頃は高齢者と話すのが少し苦手だったけど、今では自分から話しかけられるようになった



聞かせて！

# 登録者の声

**活動を通してどんなことが学びになったり、楽しいと感じるか**

- ★ **役割を持って行動したり、周りを見て声をかける大切さを学んだ**
- ★ **様々な年代の人と関わることで、コミュニケーション能力が上がった**
- ★ **活動後の反省会で次はどうしたら良いかと考える力が身についた**

聞かせて！



## ふれあい推進委員の声

**ふれあい推進委員から見て未来ユースはどう見えてる？**

- ★ 今までは卒業すると関わりがなくなっただけと繋がりが続いて嬉しい
- ★ 中学生と一緒に小学生と話す場面が増えたと感じる
- ★ 中学生が色々と動いてくれて、体力的に少し楽になった



# 北竜未来ユースは多世代の架け橋

学生の  
魔法

高齢者と子どもとの交流を生む

**教わる・教える がうまれる**

教委

介入しすぎない  
指示を出しすぎない

# 地域の可能性を引き出す「学び」



- **地域の宝（知恵・技術）** を  
未来ユースが再解釈し次世代へ繋ぐ
- 活動を通じ「**町のことが自分事**」として  
捉えられるように



# 「人間関係の**循環**」を目指す

誰かから受け取ったものを別の人や次の世代に渡していくことで地域のつながりが絶えない状態

持続可能な社会 → 多世代の関わりが必要

北竜町



子どもと高齢者のふれあい事業 と 北竜未来ユース の取組



# 北竜未来ユースのその先（展望）

- ・新しいことの挑戦の象徴に

自分たちで企画し実行する能力

- ・学生時期を過ぎても町に関わる姿勢

どこにいても町とのつながりがある

- ・外部との新しい繋がりへの担い手

北竜町のファンを増やしつづける



# まとめ

持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す社会教育のあり方（北竜町の事例から）

・**多世代**が関わる仕組みを作ること

・「育てる」ではなく「**育つ**」ような仕掛けを作ること



**ご静聴**  
**ありがとうございました**